



< 報道関係各位 >

「国際化学オリンピック」、2010年に日本で開催が決定

2006年7月10日

社団法人 日本化学会

世界中の高校生が一年に一度一堂に会し“化学”の実力を競い合う『国際化学オリンピック』の2010年、日本開催が正式に決定しました。

現在、7月2日～11日まで韓国・慶山で行われている第38回国際化学オリンピックにおいて、同オリンピックの運営委員会が9日夜に開かれ、日本開催が参加67カ国の承認を得たものです。日本は、2003年のギリシャ大会から国際化学オリンピックに参加していますが、日本での開催は初めてのこととなります。

『国際化学オリンピック』は、1カ国最大4人までの高校生が参加して行われる「化学」の国際大会です。現在行われている韓国大会には、67カ国から255人の高校生が参加しています。大会は、毎年7月に約10日間開催され、それぞれ5時間に及ぶ実験問題 (Experimental Examination) と筆記問題 (Theoretical Examination) で個人の成績を競います。成績優秀者には金メダル (参加者の1割)、銀メダル (同2割)、銅メダル (同3割) がそれぞれ贈られます。また、開催期間には、試験だけでなく開催国の文化の学習やレクリエーションなど、生徒同士の様々な国際交流が行われます。

日本での開催の正式決定を受け、日本化学会 (会長: 藤嶋昭・神奈川科学技術アカデミー理事長) では、化学に関係する学会、産業界、有識者等の総力を結集し、年内にオリンピック開催のための準備委員会を新たに組織して、開催場所や宿泊施設といった受け入れ体制、スケジュールなどの準備を順次すすめていく予定です。また、本開催につきましては、国からの支援が不可欠でありますので、文部科学省、経済産業省、内閣府等の関係官庁や科学技術振興機構等、関係諸機関の支援も要請してまいりたいと思っております。

なお、同オリンピックは2007年にロシア、2008年にハンガリー、2009年にイギリスでの開催が予定されており、日本は昨年12月に行われた運営委員会で、2010年の開催地として立候補していました。

本件に関するお問い合わせ先

(社)日本化学会 / 小林、河瀬、富樫

TEL 03-3292-6164 / FAX 03-3292-6318



《参考資料》

【国際化学オリンピック (IChO = International Chemistry Olympiad) とは】

1968年に東欧3ヵ国(ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド)が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会です。日本で有名な「数学オリンピック」も同じ3ヵ国から始まりました。1984年にアメリカ合衆国が参加して以来急激に参加国が増え、今年の韓国大会には、67カ国から255人の高校生が参加しています。

大会は、毎年7月に10日間開かれ、それぞれ5時間に及ぶ実験問題(Experimental Examination)と筆記問題(Theoretical Examination)が出題され個人戦として競われます。成績優秀者には金メダル(参加者の1割)、銀メダル(同2割)、銅メダル(同3割)がそれぞれ贈られます。

日本は2003年のアテネ大会より参加しており、一昨年のドイツ・キール大会、昨年の台湾・台北大会と2年連続で参加生徒全員がメダルを獲得しているほか、ドイツ・キール大会では見事金メダルを獲得しております。

【国際化学オリンピック 日本初参加までの経緯】

日本化学会は、1980年代後半より同大会への参加を検討し、1988年のヘルシンキ大会(フィンランド)、1989年のハレ大会(東ドイツ)にオブザーバーを派遣しました。しかしながら、出題範囲の規定が日本の高校教育課程と異なる点、大会開催時期(7月上旬の開催は、世界的には6月の卒業式が終わった後ですが、日本では期末試験の最中)、経費など、様々な問題があったため参加を見合わせてきました。

そんな中、日本では産学が協力して実施している「夢・化学-21」キャンペーン事業のプログラムとして、将来の国際化学オリンピック参加を念頭におき、高校生を対象とした「全国高校化学グランプリ」が1999年にスタートしました。

このような動きの中で、国際化学オリンピックへの参加が再び検討され、2002年オランダ大会に再びオブザーバーを派遣、2003年アテネ大会より正式参加をしております。

【「夢・化学-21」キャンペーン事業/全国高校化学グランプリ】

夢化学21のホームページ <http://www.kagaku21.net/>

1993年、明日を担う若者に化学の大切さや面白さ、化学産業の重要性を理解してもらおうと、(社)日本化学会、(社)化学工学会、(社)新化学発展協会、(社)日本化学工業協会の4団体が「夢・化学-21」委員会を組織し、キャンペーン事業を立ち上げました。

「高校化学グランプリ」は、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として、「夢・化学-21」委員会と日本化学会化学教育協議会が1998年、東京と仙台の2ヵ所で試験的に実施したのが始まりです。翌1999年から、「全国高校化学グランプリ」として全国規模で開催されるようになり、今日では参加者が1,400人を超す大会に発展しております。また、国際化学オリンピックに出場する日本代表生徒は、「全国高校化学グランプリ」の優秀者から選ばれております。

なお、2004年度より、文部科学省から『学(まな)びんピック認定大会』として承認され、名実ともに“化学の甲子園”としての役割を担う大会となっております。



《参考資料》

【過去の国際化学オリンピックにおける日本代表の成績】

2003年 ギリシャ・アテネ大会(第35回大会)

開催期間: 2003年7月5日(土)～14日(月)

参加国(人数): 59ヵ国(232人)

日本代表の成績結果: 学年は2003年当時

上野 功一さん(私立創価高等学校3年) :銅メダル

佐藤 直人さん(私立創価高等学校3年) :銅メダル

赤羽 正寿さん(私立創価高等学校3年) :敢闘賞

田辺 一郎さん(私立創価高等学校3年) :敢闘賞

2004年 ドイツ・キール大会(第36回大会)

開催期間: 2004年7月18日(日)～27日(火)

参加国(人数): 61ヵ国(233人)

日本代表の成績結果: 学年は2004年当時

川崎 瑛生さん(私立武蔵高等学校2年) :金メダル

小山 貴広さん(私立栄光学園高等学校3年) :銅メダル

神戸 徹也さん(私立白陵高等学校3年) :銅メダル

増田 光一郎さん(県立福岡高等学校3年) :銅メダル

2005年 台湾・台北大会(第37回大会)

開催期間: 2005年7月16日(土)～25日(月)

参加国(人数): 59ヵ国(225人)

日本代表の成績結果: 学年は2005年当時

川崎 瑛生さん(私立武蔵高等学校3年) :銀メダル

鹿又 喬平さん(私立創価高等学校3年) :銅メダル

今村 麻子さん(私立神戸女学院高等学部2年) :銅メダル

永田 利明さん(私立開成高等学校2年) :銅メダル

【国際科学オリンピックについて】

国際科学オリンピックは、6つの大会があります。歴史の古いものから順に次に記載

国際数学オリンピック(1959年開始 2005年度 91ヵ国参加)日本の参加1990年から

国際物理オリンピック(1967年開始 同 72ヵ国)同 今年から

国際化学オリンピック(1968年開始 同 59ヵ国)同 2003年から

国際情報科学オリンピック(1989年開始 同 72ヵ国)同 今年から 1990年代一時期参加あり

国際生物オリンピック(1990年開始 同 50ヵ国) 同 2005年から

国際天文オリンピック(1996年開始 同 15ヵ国) 同 現在参加予定なし

なお、日本での開催は数学オリンピックが2003年に実施している。

参考資料に関するお問い合わせ先 ホームページ <http://www.kagaku21.net/>

(社)日本化学会 / 冨樫、河瀬 TEL03-3292-6164 / FAX03-3292-6318

(社)日本化学工業協会 / 青山 TEL03-3297-2555 / FAX03-3297-2615

高校生の写真をご希望の方は電話か grand-prix@chemistry.or.jp メールをお願いします。